

## 公民館だより

H 2 1 2

由良地区  
公民館

## 二 挨拶

由良地区 公民館長 小室 哲寛

万山錦の彩りに染めた秋の装いにも次第に冬の風情の漂う候となりました。

皆様には益々ご健勝にてお励みのこと、お慶び申し上げます。

この度小松忠衛氏の公民館長ご退任に伴い不肖私が後任として由良地区公民館運営審議会のご推薦を受け十月一日より館長の重任をお受け致すこととなりました。もとよりその器ではありませんが、地区の皆様のあたゝかいご支援とご協力をいたゞき務めさせていただきますと存じますので、何卒よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

私事にわたり恐縮でございますが、私お陰様で四十年余りの永い間、由良郵便局長として地区の皆様にご支援を賜りつ、無事勤めさせていたゞき充実した日々を過ごせていただきました皆様のご厚情に対して、衷心より感謝を捧げお礼を申し上げます。

この度は角度を変えて公民館という社会教育の面から、由良地区を考えていく立場となり戸惑っておりますが、幸いご立派な人柄と卓越された手腕の小松前館長さん

や、優れた公民館役員の方々、ご熱心な自治会長さん方や各種団体の方々のご指導を賜り、私も一生懸命に勉強をして、地区の皆様と共によりよい由良地区づくりを微力を捧げたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

さて公民館活動につきましては先輩各位のご努力により、由良地区は有難いことに宮津市の中でも高い評価を受けていると承っておりますが、申すまでもなく公民館は地域住民の方々の文化、教養の向上と、健康の増進を図り豊かな情操を養うことなどを目標におき社会教育全般わたる分野を受け持ち、特に近ごろは豊かな人生を求めて生きがいのある充実した生活を送るための「生涯学習」の場としての役割を担っております。

この生涯学習については宮津市は昨年度府下でも数少ない「生涯学習モデル市町村」に選ばれ、この生涯学習を通じての町づくりに努力致しておりますが、この生涯学習についてふれて見たいと思えます。

生涯学習とはご存知の通り、変貌する時代に対応して、より充実した人生を送るため生涯にわたって自から学習し、社会の変化にとり残されない為にも自分自身を年齢に応じて継続して学習し向上させようというものです。これがこれにあくまでも自分の意志に基づき、自分に適した方法で自ら進んで学習することであり、自分の学びたい知識や技術を学び自分の興味のあるスポーツに親しみ、豊かな心を養うための趣味を追求してみたりすることから始まります。

これを実践していくために公民館として、その場を作り、振興のための手だてを考え、積極的な推進を図るといふものであります。

具體的な観点について考えてみますと生涯学習にはいろいろな捉え方がありますが、人生の最初の学習の場は先ず家庭であります。乳幼児の家庭教育の大切さが再認識され、人間性豊かな人格形成のため、親や周囲の人に対する信頼感や自立心を身につけることなどから始まり、す。少年期には活動性や自発性を発揮することに努め、青年期には自分の態度や行動に一貫性を保てるように親がふさわしい環境を家庭で作っていくことが大切です。そのためには親自身がひたむきに楽しく学んでいる姿を子供に示すことが子供に意欲や姿勢を植えつけることになるのですから、親としての学習は大切であります。このような生涯学習の方法等については今後皆さんと一緒に考えて考え合ひとり組んでいきたいと存じております。婦人について申しますと、由良婦人会では組織に対する自覚が高く大変活発な運動が展開されておりご同慶の至りですが、これからも婦人が自らの資質や能力を向上させるための学習機会が得られることを望み、又婦人問題や生活の中における婦人の向上、ボランティア活動等更に積極的な学習活動が進められるよう公民館としても援助していききたいものと存じております。

高齢者の方々にとつても、人生八十年と言われる中で、人生の一番大切なしめくゝりの時機、生涯の集大成をすべきときに、かけがえのない人生のその一日を大切に、心をつくして勢一杯の充実した日々とするため、お互いの人権を尊重し合い、平和に生きると言う価値指向のもとに、生きがいを培い、積極的に社会参加に努め、自主的な学習の機会に出席し、社会奉仕につとめるなどの諸活動に公民館としても出来る限り力になつていききたいものと念願しております。

更に健康や体力作りへの関心も昨今急激に敷衍（ふえん）化されて参りましたが、生涯学習の中でスポーツを生涯の友とすることが重要な要素であります。若い人達には楽しみやストレス解消に、高齢者は運動不足の補のためには筋肉をほぐし、自分に合った興味のあるスポーツで楽しむためフィットネス教室を開きます。十二月十二日より始めますが、将来夫々の希望に応じフィットネスクラブを作るなどして気軽に参加出来る愉快なサークルにしたいと思つております。簡単なスポーツを通して汗をかき喜びや体を動かす楽しさを自ら知つていたゞこうとする企画です。是非多数ご参加いたゞくようお願いいたします。

又生涯学習には趣味や同好のスポーツを通しての集りと言うことも大切です。現に由良地区では数多くの同好会や趣味サークルがあり大変活発に活動をしており、今後益々発展することを願つております。スポーツ面では少年剣道、少年野球、バレーボール、小林寺拳法、ゲートボール、バトミントン、卓球、空手等々小学校体育館でも夜間日程を割り振り皆が生き生きとして楽しくスポーツに興じておられる様子を見て嬉しく存じております。又文化面ではピアノ、大正琴、詩吟、扇舞、民謡、謡曲、お茶、お花、習字、墨絵、写真、囲碁、歴史をさぐる会など幅広いサークル、教室があり、同好の方々が自分達の自発的意思に基いて夫々の人々の自己の充実、自己実現に向つて欣然と参加している姿、これこそが生涯学習であると存じます。

この趣味、スポーツサークルを大事に継続し伸展させていくことは実に大切なことでありますが、一方更にもっと多くのサークルを作り育てることにより、より多く

の人達が楽しめるものと思われます。例えば各種教養講座、俳句、短歌、などの向学心を同じくする人々が集り、又趣味には盆栽、手芸、花作りのサークルなども楽しいと思ひます。この同好同趣味のサークルが生き生きと活気づき深められていく延長線上に生涯学習の理想が芽ばえ、ひいては全体としての生涯学習の町づくりへと発展していくものと信じております。

生涯学習としてその他次々と望みたいものには、青少年の地域活動、行事への積極参加。一般社会人の教養講座。公民館を活用した地域住民の町づくりの集い。図書館の活用等々際限なく夢は拡がって参ります。

今後皆様と共に生涯学習というものを摸索していき、生き生きとした町づくりに意欲を燃していきたいと念願致しております。

以上生涯学習についての所感の一端を述べ今後の公民館活動に各位の絶大なるご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

## 公民館長辞任、のご挨拶

小松 忠衛

昭和六十年より五年、由良地区公民館長として、地域の公民館活動の運営に努力してまいりましたが、一身上の都合により辞任することになりました。

この間、宮津市教育委員会、由良公民館運営審議会のご指導、公民館主事、分館長、文化体育部の幹事さんのご協力、ならびに、地域の各種団体、地域の皆様方のご理解に支えられ、何とか公民館活動の運営ができましたことに對して心から御礼申し上げます。

在任中、常々申し上げてまいりましたが、公民館活動は、人間尊重、人権尊重を基本において、地域の方々の連帯のもと、住みよい由良を造っていくことであり、どちらかと申しますと、地域の人々がお互に心の活性化ができれば由良地区の眞の活性化はできないと思っております。

新館長のもと全地区民のご理解とご協力により、由良地区公民館のますますの発展を祈り辞任のご挨拶といたします。

## 報 告

( 船 野 )

### 一、四部対抗球技大会

日時 八月十四日  
会場 由良小学校グラウンド  
成績 一般男子ソフトボール 第三部 優勝

青年男子軟式野球

優勝 第四部

本年の球技大会は小学校グラウンドが整備されて初めての大会でしたのでルール等に多少の戸惑いがあったものの大変気持ちよく試合ができました。盆に帰省して出場された選手の方は、自分の少年時代と比べ、ふるさと母校がたいへん良くなったことを喜ばれたことと思います。

二、盆踊り大会

毎年八月二十三日の地藏盆に開催しておりましたが本年から少しでも大勢の方にといい、盆休みで帰省している方や、浴客の多いうちにといいことで、盆のなか日の十四日に行いました。珍らしく浴客の姿がちらほらと見えました。特に今年は、先輩のご指導や、婦人会のご協力によって、角力取り踊りをやりました。この踊りは比較的踊り易いうえ、しかも情緒が豊かで、その表現には奥深いものがあります。皆さんも「ドスコイ ドスコイ」と参加していただき、来年はもう一まわり輪が大きくなりますよう、今からお願いをしておきます。

三、第六回市民綱引き大会

「綱引き競技」を通じ、市民の体力の向上と健康の増進並びに親睦と和を深め、地域スポーツの振興を図るものとする。のが開催の趣旨であり、毎年、宮津市教育委員会が主催しており、今年は六回目で十月二十七日宮津市民体育館多目的練習場で開催されました。

四、由良地区文化祭

日 時 十一月十一日（日曜）

午前九時から午後三時まで

場 所

由良の里センター

写真・生花・絵画・手芸・習字・盆栽他

お茶席・バザー

出展作品は、何れもその努力のあとがにじみでるような力作ぞろいで、唯々驚嘆そのものでした。また、小学校児童の図画・習字・工作等や、幼稚園児の楽しい共同作品などはなやかに展示できましたことを厚くお礼申しあげます。毎年格調高く設けていただきますお茶席は、今年は裏千家茶道同好会の皆さんによるお点前で、心静まる結構なお服かけんでございました。お世話になりました先生方に厚くお礼を申しあげます。婦人会協賛によるバザーは、今年も盛会で、大勢の皆さんにご協力いただきました。また、うどん、せんざいの味は天下一品アロを上回るものがあり、「あア！おいしかった。」の声がしきりに聞えました。婦人会の皆さん、ほんとうにご苦労さんでした。

ビデオコーナーは、坂本同氏の提供によるもので、大変すばらしい構成でした。また来年を期待したいと思います。ありがとうございます。今年始めて菊花盆栽展を設けましたが、いづれも丹精こめて作られたものばかりで、大変見事なものでした。

## 五、京都府公民館大会

第三十三回京都府公民館大会は、「第二回生涯学習フェスティバル」事業の一環として、「地域住民の生涯学習を推進し、生活と文化を高めるための公民館のあり方を考える。」というテーマの下で、十一月二日 公民館関係者三〇〇人が出席して、国立京都国際会館を会場にして開催されました。

## 六、前館長 小松忠衛氏の受彰

前述の京都府公民館大会で、前館長 小松忠衛氏が次の業績によって表彰を受けられましたので、ここにご紹介を申し上げます。

昭和六十年六月一日由良地区公民館長に就任以来、地域の人々が健康で生きがいのある暮らしをつくるため、スポーツ、文化活動の推進に努めるとともに、同和研修会を開催し、地域の人々のおもいやりのある人間関係の確立を図った。更に、地域づくりを主題とした「土曜座談会」を開講し、地域ぐるみでまちづくりを推進するなど、時代に合わせた活動をしている。

## 報告 二

皆さんとともに盛大な拍手とお祝を送り「おめでとうございます。長い間、ほんとうにご苦勞さんでした。」を申しあげたいと思います。

### 一、寄贈、寄附

(1)、壹萬円

大森 寅一殿

☆盆の球技大会にお寄せていただきました。厚く御礼申しあげます。

## 軟式野球「由良クラブ」

### からの報告とお願い

### ※宮津市民野球大会の報告、

第十九回宮津市民野球大会が平成2年7月29日・

8月5日・19日の日程で市民球場他の2会場を使用して、主催宮津市野球連盟、市体育協会、読売新聞社、後援。で宮津市内、旧村、各自治会単位のチーム編成で20チームの参加にて行われました、当由良地区としても第一回大会より順次出場をして居り過去2度

中西 隆光

の準優勝を果たし近年では昨年、一昨年と2連覇を成し遂げ、今大会でも優勝候補の筆頭との折り紙つきの予想を頂いていたのでありましたが、当地区チームの母体である野球部「由良クラブ」の主力部員が勤務の都合等の為、今大会でベストメンパーを組む事が出来ず、一回戦は市内上宮津地区「宮村チーム」に2対2の末抽選勝ちをし初戦は突破したものの2回戦で宮津高校野球部OBを主体に編成された、若き強剛「府中チーム」に敗退をし3連覇の夢は消えたのでありまし

た。  
本大会は、今後も毎年同時期に開催されますし宮津市内における「由良地区」の野球熱のイメージをアピールする為にも由良クラブ部員以外の方々の御参加をお願い致します。

※ 軟式野球「由良クラブ」からのお願い

現在由良地区在宅者で軟式野球「由良クラブ」を編成し活動をして居りますがクラブ員それぞれが職種が違う為ベストメンパーでの活動が難しい状態でありま

す。  
「由良地区に在住の皆様、草野球で汗を流しませんか」一人でも多くの入部を期待して居ります。

「連絡先は次の部員迄」

◎	田中	昭義	〆	2	6	〆	0	4	5	6
◎	矢野	善記	〆	2	6	〆	0	2	0	9
◎	中西	隆光	〆	2	6	〆	0	5	4	5

(他各部員迄)

短歌

投戒会

中西 夏江

四百の位牌鎮もるふるさとの菩提寺にいま戒法を受く  
法悦の坐(ざ)に際立ちて緋の衣(きぬ)の住職が発  
(はな)つ莊重の言

生かされて規(ただ)しゆくべき想念ぞ坐(ざ)す須  
弥壇に時流れゆく

うつし身は香煙の中に血脈(けちみやく)を受けて十  
方三世寂しも

清らかな尼僧の訓(おしえ)さびさびとわが春愁のい  
のちにひびく

「平等無有高下」巡堂するときのあわいにふかき香の  
むらさき

しらしらとさるすべりの花に風吹けり愛知専門尼僧堂  
は 初秋(あき)

梳(す)く髪もルージュも持たず青春の尼僧は自浄の  
一志つらぬく

生の日の葉にせよと賜わりし「散華」に秋の空はるかなり

再びを生死（しよじ）説く高き老師（し）にまみえ握手して辞す 叢林の坂

## みやづ婦人スポーツ

### フェスティバル、90に参加して

一婦人会

スポーツの秋にふさわしく、さわやかな青空の下、日本三景天の橋立を目前に、島崎グラウンドにて十月二十八日、第五回記念大会が催されました。

市長さんをはじめ、来賓の方達を迎え、広げよう婦人の和を合言葉に千二百人の婦人が一堂に集りました。由良地区からも百余名の選手の方達にお世話に成りました。

「入場行進」では、由良岳に虹がかかり特産物のみかんを描いたプラカードを先頭に、右手にピンクの造花をつけ四列縦隊で宮高のプラバンに合せ、足どり軽く行進しました。本部席前を進む際には、右手を「サット」高くあげ地区色のピンクを印象づけたまるでオリンピック選手にでもなったかの様な感じを味わうことが出来まし

た。「ラジオ体操」久し振りに体全体を動かし気分爽快でした。

「フイットネスパズル」健康啓発のパズルを釣り上げ体を動かしました。

「天のかけ足見てあるき」童心に返り、大きい体に三輪車「ヨイシヨ」と進めないもどかしさ、選手のママさん大変でした。「三輪車も大小があつたので」とか。

「Let・ベタンク」思い切り腕を伸してボールをサークルへ。

「紅白玉入れ」籠をめがけ「ヨイシヨ」とほり上げても届かなかつたり、上り過ぎたり、なかなか籠に命中しませんでした。「あつ入つた」と歓声。

「七八の美脚」ひもむかで、下駄むかで大勢のグループなので「右、左一、二」と心を一つに掛声、一人でも乱れると。

「キャッチング、ザステイック」各ブロック毎に一名の来賓も加わってもらい「トントン・パ」と声を合せ移動しました。当地区は、山田市議長でした。

「健康度チェック」風船を三ヶ所で握つたり抱いたり、ヒップで割つたり奮斗しました。

「クリーン消防隊」四十人が一列に並び紅白の玉をバケツいっぱい入れ落さない様にリレーをしました。

「ジャンボ縄飛び」十分間で何回飛べるかを競い合いました。我が地区は大奮斗して頂き記録をつくり、認定証を頂くことが出来ました。選手の皆様御苦勞様でした。

「綱引き」日頃鍛えた腕や腰、思い切り大奮斗して頂きました。

「わたしたち五百歳」十二人の合計年令が五百歳以上を

越えることを条件に、第一走者、第九走者が各々ボールを使つての競技で奮闘して頂きました。

「宮津おどり」参加者みんなで踊りフィナーレをかざりました。

プログラム通り順調にすすみ、怪我をする人もなく一日を有意義に過ごさせて頂きました、参加されました皆様方、本当に御苦労様でした。

この様に婦人会行事に参加することに依り日頃顔を合しても頭を下げていた挨拶が「どう元氣頑張っている」と一言が増え、婦人の和は大きく広がります、行事参加は、人の和を広げる基本と思います。

因なみに

九月二十九日、府フェスティバルには、宮津市が優勝、由良地区からは三十名参加し、大縄飛びでは十五名が大奮闘されました、

◎市フェスティバルの様子は、KBS京都でテレビ放映されるそうです。

平成三年一月六日（日）午後十時〜十時半

## 『一つの経験』

山下 久子

この度京都府連合婦人会の「もえぎプラン京都」の活動の一つとして第二次女性大使海外研修旅行に九月三日から十一日までジョクジャカルタ特別区、シンガポール、ジャカルタ、バリ島へ団員十五名と参加しました。ジョクジャカルタ特別区は1985年、京都府と姉妹都市の提携を結んでいる州で、京都府知事、京都府教育長の親書伝達、婦人団体との懇談、学校訪問、施設見学等の日程でした。

この国は赤道直下で平均気温28度〜30度昼も夜も暑く常に気力体力をしつかり持っていないとだめになる事を商社マンの方々は言っておられました。日本の気候は四季があり変化のある有難さを身を持って知りました。飲み水の不自由さは想像以上でしたし、用便後は自分で約で洗い流すと言う状態でした。訪問した中学校では、教科書はなく鉛筆一本紙一枚といった状況で学習をしていました。運動場もない乏しい設備の中で頑張っている姿を見て日本の現状とくらべいろいろ考えさせられました。校長先生が日本からの教育援助を何回も言われたのが心に残ります。又ホテルのボーイをして働きの金をため日本に行き勉強したいと言う青年もいて貧しいので働しながら向学心にもえる青年達を見、訪問団員の中には帰国してからある機関が創設している里親制度基金の援助会員に加入した人もあります。移動するバスの中から見ると民家は、竹、木、葉、トタン等で作ったもので、はだか電球がつるされていした。午後は暑いので学校も授業はありませんし、昼寝をしたり店は戸を閉めその家々の前でだらんと座ったり横になっている人達を大勢見ました。世界的にも有名なボロブドール遺跡を見学し建立当時のこの国の文化をしのびましたが、観光地には



土産物を売る子供達が『千円、千円』とつきまともって来る事もありました、帰国後50年前当地で活躍しておられた方に偶然お話しお話をしたりその時の写真と見くらべちがいがわかり、年々修復されている様子がよくわかりました。貴重な遺跡を世界中で守っているかなければならないと思います。

貧富の差の大きい事や、住宅、生活内容、教育施設等あらゆる点で乏しい事をいたるところで見聞き、開発途上国のきびしさを目のあたりにし、日本は恵まれているなあとその有難さがわかると共に贅沢すぎると思いました。シンガポールの街は聞いていた通り清掃がいきとどき緑の芝生がきれいで樹木も多く近代都市を形成しつつあります。その中で環境の悪化が問題になって来ているとの事です。

引き続き十月三日から十一日まで、ニュージーランド建国150周年を記念して姉妹都市であるネルソン市で行なわれる公式行事に団員二十三名と参加しました。

宮津パーク拡張式と記念植樹、マオリの人々との交流、ホームステイの体験、施設見学、婦人団体との懇談等の日程でした。行く先々で歓迎を受け私達も一生懸命友好に勤めてまいりました。今回の訪問記につきましましては、新聞紙上その他ですてに御承知になつていられる方もありましようが、私の印象を少し記して見ます。

この国は日本より九時間の空の旅で季節は下度春たけなわの桜の花が満開の時期でした。ネルソン市は緑が多く青々とした空、大自然の中におとぎの国のような家々が建つすばらしい所でした、郊外は絵ハガキの通りの見わたすかぎりの広大な牧場に、羊、やぎ、牛がのんびりと草を食べていました。よく訓練された犬が合図一つで羊の

群を誘導して行くのにはみんな感心したり、規模が大きくヘリコプターを使用したり、子供も仕事をまかせられ責任を持ちよく手伝う様子を見、たのもしく思いました。生れてはじめて馬に乗りこわかったりうれしかったりでした。又どの店も五時には閉店し家族で楽しむ時を持ち、友達や周りの人々との交流を大切に、質素な中にもゆとりのある生活ぶりを見聞き、日本の社会においてもえなおし学ぶべき点が多いと痛感しました。

生涯学習と昨今いやと言う程耳にしますが、この旅行に行かせていただいたおかげで、数々の貴重な体験をした事と共に多くの人々との出合が出来、より広い視野が広がり、物の見方、考え方等教えられることが多々あります。今回の体験を大切に、自分自身を見つめなおすよい動機、場を与えていただいた事に感謝します。

## 私の趣味

写真 随想 中西 健之上

今回図らずも由良公民館長さんの方より、カメラクラブに公民館だよりに寄稿せよとの連絡を受けましたが何分にも作文に關しては不得手な上又何を書いてよいのや

らわからず戸惑いました。折角の御依頼でもありませんので、敢えて駄文になるとは思いますが筆を取る事にしました。

昔は外国人の目から見た印象は「眼鏡を掛けて『カメラ』を提げていたら日本人と思へ」と云われる程カメラ好きであった様に何か本で見た事があります。日本人は総体的に器用な人が多いようです。戦後やっと国内に平和が戻り物資が豊富になつて来ましたが、とてもカメラなど買う余裕はなく高価で手が出せず「高嶺の花」的存在でもあった。その当時自分は体調を崩し入院生活を送る身となりました。その中少し経過も良くなり暗いベツトの上で、ふと頭に浮かんだのが「カメラ」です。早速カメラ雑誌を買つて来て反復し読んでいる中に興味がわいて来て始めたのがきっかけで、途中一時的にスランプな時期もありましたが、還暦を過ぎた現在でも、風景、花の接写、など手近な被写体にレンズを向けて楽しんでいきます。カメラの進歩も著しく、レンジファインダー（距離計連動）カメラから一眼カメラ現今では、マイクログンピューター内蔵カメラと変遷して「カメラ」にフィルムを装填してシャッターを押せば写る、いわゆる「バカチョン」カメラが出現しわづらはしい操作なしできれいな写真が撮れる時代となった。又ある一方では「マニア」カメラの要求も出ている有様で業界でも猫の目程移り変わる時勢に対応するのも大変だと思えます。

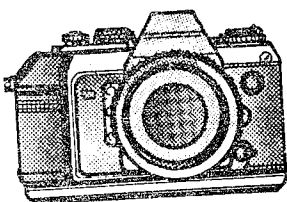
「写真とは、風景に始まり風景に終る」と云う。作品を作ろうとして先ず写すのは風景である。色々の過程を経て最後にたどりつくのは又風景出である。ある写真著書にも、この様に写真研究家は供述している。写真と一口に言っても範囲は広く、深く、人様々な採り方、考え方

、又時代感覚に依つても左右されると思う。以上自分の写歴を簡単に述べたような随想になりました。

最後にカメラクラブ発足の動機は十年前四方先生が大変な思いです。クラブ発足の動機は十年前四方先生が大変な写真愛好家でありましてある席上で写真の論議をしていた処、それでは由良にクラブを作つたらどうかと云う事で先生をリーダーとして結成会を開く事になり、会員数十名程の集りでクラブ発足の運びとなり、毎月十八日由良の里センターを借用して研究会を開き各自の作品を持ち寄り批評し合つたり又「メカニクス」研究等を行う等、年一、二回程度の撮影旅行を計画し行事を行っています。ところが最近会員数が減少し、現在は会場を四方先生の厚意で自宅を会場とし使用する様にとの事で、御世話になつています。これから写真を志向される方がありましたら何時でも気軽に入会して下さい。恵まれた郷土由良の四季など自由に変わった観点から撮つてみるのも面白いと思ひます。

※ 現在（平成二年十一月）クラブ会員名簿

四方 寿朗  
坂本 同  
玉垣 勇治  
中西 俊夫  
新宮 義男  
大石 伊兵衛  
中西 衛  
中西 健之上



# 川柳

(宮津番傘川柳会)

ふる里の煮つころがしに亡母が棲む  
月見草浜の歴史を繰りかえす

大森 美智子

フラスコに未知の縮図を溜めている  
秋枯野素足の風が吹き抜ける

田村 キ又エ

家中の規則を合わす嫁の腕  
老いた母昔の知識聞いてやる

磯田 栄

視野変えて長い自縛の縄を解く  
目前でするりと逃げた青い鳥

飯沢 鳴窓

## やぶにらみの記 16

健康いろはカルタ

四方 寿朗

る、命の洗濯 レクリエーション

一般に老人や若者の働き過ぎは減ったが、中年の過労による障害や突然死は減っていない。疲れを癒やし、精神的、肉体的に新しい力を盛り返すための休養や娯楽は、是非必要である。目先の利益にとらわれないで、本当の人間の幸せを考える心のゆとりが欲しい。

の、残る年月 精いっぱい

老人が「早く死にたい」と言うのは、殆んどが本心ではない。但し健康と寿命は別。一寸先は闇、折角天から授かった命。何かに情熱を燃やし、若しかして今日で終るかも知れないこの一日を、一生懸命大切に生きたい。

お、親のふり見て 我がふりなおせ

現代の三大死因、がん、心臓死、中風、その原因の半分は親ゆずりの素質、後の半分が自身の養生と運だ。親の生涯を冷静に観察して、悪い処を見習わないよう。しっかり心掛けよう。衣食住その他、毎日の生活を、健康第一主義で過したい。

由良 く 歴史と文化財 (三)

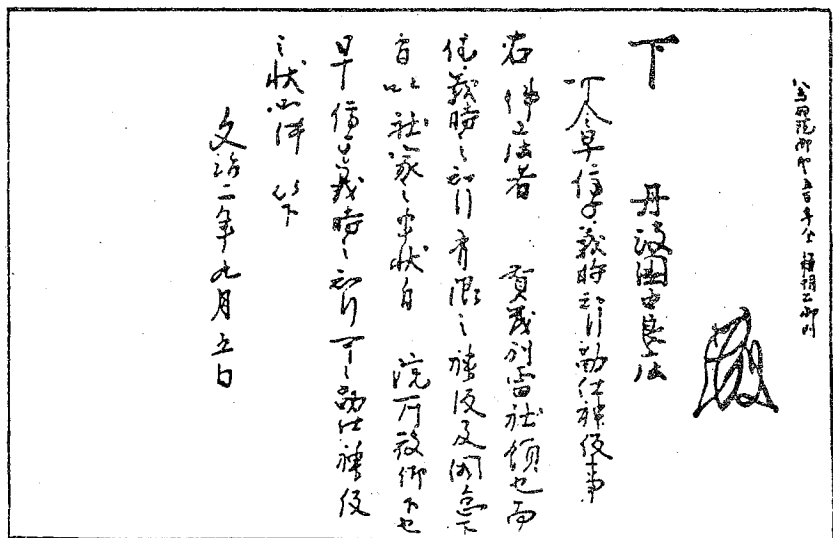
山椒太夫伝説の周辺 その七

山椒太夫に仮託される人物は、元来商人として、その在所と由良の間を往来していたが、特に、由良川河口の塩に目を著け、後には由良に定住し、その器量、財力と才覚によって、土地の百姓の人望を得、更には領主の信任を受け、荘司或いはその代官となった人物であろうと書いてきました。しかし、中世「由良荘」の存在を示す史料は、丹後に關する限り、見出だすことはできませんでした。処が、「舞鶴史話」(舞鶴市編)には、

文治二年(一一八六)九月五日付、源頼朝下文(くだしぶみ)下欄図版参照

を援用して、「由良は文治二年の頼朝の下文によると賀茂別雷社の社領つまり莊園であったようです。」と記されています。(同書五〇頁)この文書をよく見ると、それは「丹後国」ではなく「丹波国」と書かれていた筈です。ただ、波の字が甚だまぎらわしいのは確かで、「丹後」と讀もうと思えば讀める程の書き方であるとも言えるかも知れません。しかも、その当時は、丹波・丹後を含めて「丹州」と書くのが慣例であり、丹波・丹後を書き分けることはあまりなかったのです。特に、書き分けてあるとすれば、「丹後」ということを明らかにする必要があったのではないかと、考えられたということも、或いは、否定できないかも知れないと思えます。更に

、この文書が発見された頃、丹波・丹後を通じて、由良という地名を村名にもつていたのは、丹後でありました。その中で、この文書の研究者も「丹波丹後国」は「丹後国」であるかと解釈されたのかも知れません。そこで、丹波国の地名を調べてみますと、現在の兵庫県氷上郡氷上町(旧幸世村)内の字として存在しているのです。「北油良」・「南油良」がそれです。勿論「ユ」の部分「由」でなくて、「油」の字が当てられています。



源頼朝下文(上賀茂神社所藏)

舞鶴史話50頁図版より

。この例は、但馬国（現兵庫県）美合郡油良村（現香住町字油良）の場合にも同じことがあり、それが、鎌倉時代初期にどのように表記されていたのか分りませんが、発音が同じであれば、そこにどのような字が当てられていようと、余り、気にしないでもよかったです。この場合も同様に、字の違いというものは、その意味のあることではないということです。

私も、最初「舞鶴史話」を読んだときは、それは、昭和三十年代のことですが、塩という重要な産物をもっている由良のことでもありますが、塩といふ重要な産物をもっている由良であり得ることだと思つてはいたものです。しかし、この丹後由良という所を考へてみますと、賀茂別雷社の荘園であつたという痕跡―例えば、地名、神社、祭祀、芸能、民俗など今に伝へるものがまったく存在しないのです。これはおかしいことです。若し、この由良の地が賀茂別雷社の荘園であるとすれば、その地域の何処かに、それに相応する地名か神社の存在がなければなりません。例えば、藤原氏の荘園であれば、その域内に、その氏神である春日神社を奉祀しているとか、石清水社の荘園であれば、矢張り、男山八幡社が、当然、祀られていなければならぬのです。それなのに丹後由良には、そういう痕跡を見出だすことはできませんでした。一方、丹波の油良は、丹後の場合とまったく違つて、その近くの北田井という所に賀茂神社が勧請されておられ、その氏子域は北田井、南田井、田中、北由良、南由良、棧敷、伊佐口、香良、絹山、（以上、現氷上町）東芦田（現青垣町）とされています。これだけでも賀茂別雷社領としての証跡と言えますし、立荘される以前のその地域は賀茂郷であり、賀茂氏との関係は、更に、深いもの

があつた所でした。こう見てくると、どうしても、丹波国由良庄は、氷上郡氷上町由良を中心とした地であり、その庄域は、賀茂神社氏子域と重なる地域であろうと思わざるをえないのです。そうであるとする、丹後の由良は、荘園と無関係なのかということですが、由良の地名に注目することで、或る推測を立てることができると考へた訳です。それで、

一、 荘司の在所を推測できる地名：障子平、内垣、居屋敷

二、 公文所の在所を推測できる地名：クモンド

三、 その他、荘園の境界を推測できる地名：関

を見出だすことができます。しかし、丹後の由良荘に關し、それを証する史料がないとすると、丹後の場合、中世において、由良の地或いはその部分を含む荘園が存在したであろうことを考へてみてもよいのではなからうか。また、隣域の栗田の内には「上司」・「城司ヶ谷」という地名があります。これを考へてみると、由良所在の荘司は、栗田所在の上司に対して「下司」であつたと想定することはできないか。そして、東南の境に存在した「関」の位置とを考へ合わせることによつて、中世、由良の地は、現在の石浦の地を含めて、或いは、宮津荘の一部であつたという可能性があるのではないかと思つているのです。荘域というものは、行政上の区画と關係なく、郡境を越えて立てられることもありまから、与謝郡域内の宮津荘の一部に加佐郡域内の由良が含まれていたとしても、少しもおかしくないのです。例えば、同じ加佐郡の漆原が宮津荘に含まれていたことは、「丹後

国田数帳」の内容によっても明証のあることで、この推論もまんざら否定できないことであろうと思うのです。そして、このことは、由良の地が、本所と離れて位置する散所的荘園所領であるという姿を表出するのです。

(平成二年十二月十日 小谷)

### 参考書

舞鶴市編「舞鶴史話」

吉川弘文館版「日本古文書学論集」6 中世

Ⅱ、鎌倉時代の法制関係文書

角川書店版「日本地名大辞典」兵庫県篇

舞鶴市史編さん委員会編「舞鶴市史」史料編

「両丹地方史」第四二号(八六・八・三十)

所收 小谷一郎「山椒太夫伝説を通してみた中世由良の景観」

### ◎ 訂正

公民館だよりN〇八一(平成二年七月)号の「地区対抗駅伝を振りかえって」の文の中で「若手の力不足」とありましたのは、「若干の力不足」の誤りでありましたので、ここにお詫びして訂正いたします。

### 編集後記

◎ この公民館だよりNo八二号を皆様にお届けする時機が予定より多少遅れ年末ぎりぎりとなりましたことをお詫び致します。

◎ No八二号の原稿をいたゞき、随想、短歌等はこのほど感慨深いものが多く、大変嬉しく存じております。この公民館だよりも先輩各位のご努力により、回を重ねること八十二回、地域への公民館の広報の場として営営として続いて来ていると言うことは洵に意義の深いものがあると存じます。希わくばこの小冊子がこれからも地域の人々の心の通い合う広場として、又躍動し展げゆくふるさと由良の指針として、広い視野からの玉稿が得られ、又更には多くの人々に読まれ愛されていくことを念願致して止みません。(小室)